かしのみ

NPO 新潟県
山野草をたずねる会
機関紙
令和4年12月11日
第36号

退任の挨拶

健康問題に係る活動の劣りによる涙の勇退

NPO 新潟県山野草をたずねる会　名誉会長　小日向　孝

（樹医博士・環境省・農水省カウンセラー
環境教育インストラクター・花と緑のアドバイザー）

教育職員の身にあって、環境破壊と心の崩壊は同根との認識にたっています。昭和 50 年頃は、自然環境破壊が進行していました。自然と人間の快適な生活と持続可能な安全安心の環境づくりと自然環境開発保護を願いました。特に、自然保護教育のあり方を求めました。昭和 54 年 4 月 1 日から 9 月 30 日の内地留学生制度で新潟県教育委員会に研修の機会を申請し許可され、横浜国立大学環境科学センター植生学研究室理学博士宮脇昭教授に内地留学生として研修の機会を得ました。

地域の潜在植生が生育するふるさとの森づくりという、持続可能な緑を増やし、人間性豊かな生活や自然と調和した町づくりと森をつくる体験を通して、人々の自然への回帰を目指す環境との共生を課題に持っていました。

蒼柴の森育樹にて

環境の破壊と心の崩壊は同根との認識のもと、掛け替えのない自然を保護保全、回復することは、いのちと心を育む教育であり、環境と共生した持続可能な本物のふるさとの森です。いのちの森づくりを目指して、昭和 57 年 11 月、6 名の会員で任意団体 NPO 新潟県山野草をたずねる会・植生研究会を発足しました。主な活動場所は、県立自然公園八方台（休暇センター跡地）、悠久山公園（蒼柴の森）、長岡ニュータウンの一角糠山荒廃地のふるさとの森づくり活動でした。顧問を理学博士宮脇昭先生、理学博士鈴木邦夫先生、理学博士藤原一絵先生とし、平成 16 年 10 月、法人に認可され、活動が推進充実化し、豊かな活動になりました。

自然との豊かな共生を目指して、健康で心豊かな潤いのある生活と持続可能な社会を構築するために、環境保全といのちと心の教育の推進に努力してきました。会員・市民・企業等との相互連携を図りながら環境教育に関する活動、自然環境の保全及び緑化推進に関する活動、生活環境の保全と改善に関する活動等、活動内容の充実深化を図り、自らの実践活動を基本に事業を行ってきました。

（環境教育の推進）

① 早春の山野草をたずねる会　② 藤見の会　③ 春の野を歩き山菜をたべる会

④ 合宿研修（学びの旅）秋の野に学ぶ　⑥ 森づくりに学ぶ―ふるさとの森に学ぶ体験活動―環境保全いのちと心を育む環境教育・緑の講演会―自然との共生

（自然環境の保全・地球温暖化防止及び緑化推進）―いのちの森―ふるさとの森再生

① 蒼柴の森植樹・育樹　② 八方台の森植樹・育樹　③ 糠山自然復元植樹・育樹、学びの森植樹　④ ドングリ実生育苗活動

（生活環境の保全改善）　食用・薬用・健康茶等に関する恵み体験と研修

（付帯する一切の活動）

① 市民活動フェスタ活動展示及びフリーマーケット　② イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン　③ ＮＰＯ法人長岡献血友の会街頭献血協力活動

④ 自然観察指導員登録研修　⑤ 機関紙発行『かしのみ』　⑥ 学び合う会開催　他

活動の推進と活性化の足しとして、長岡市環境審議会委員、環境省・農林省・環境カウンセラー、地域づくりと花と緑のアドバイザー、環境教育学習インストラクター、自然観察指導員、生きがい支援アドバイザー樹医博士の資格のもとに、いのちの森づくり、環境教育活動に努力してきました。しかし、健康問題に係る活動の劣りと会員の高齢化に伴い、法人を解散し、令和3年4月1日、任意団体に衣替えしたのを機に、ＮＰＯ法人の理事長を退任しました。任意団体ＮＰＯ活動23年間、ＮＰＯ法人活動18年、通算40年間、宮脇昭先生はじめ顧問の先生方の指導と、会員、企業会員の公益社団法人長岡法人会、長岡信用金庫、日本精機（株）、ボランティアサークル、イオンリテール（株）、イオン長岡チアーズクラブ、環境カウンセラー協会、東北電力（株）等の協力を賜り、また、活動資金で（公社）にいがた緑の百年物語緑化推進委員会、公益社団法人国土緑化推進機構、一般社団法人霞会館、三五自然共生基金、公益財団法人山口育英奨学金の助成をいただき、感謝申し上げます。また、多くの関係企業、団体の皆様、ご協力とご支援を賜り感謝と御礼を申し上げます。

会員の協力と努力の活動に対し、新潟県環境賞受賞（H22.11）、長岡市表彰『地域社会貢献者褒章』（H26.11）を受けたことを誇りに思います。

糠山、きのこ研修にて

宮脇昭先生のご指示の下、ＮＰＯ法人新潟県山野草をたずねる会の活動である、いのちの森・ふるさとの森づくりは、地域環境の改善、地球温暖化防止に役立っております。天災は、防ぐことはできませんが、その被害を最小限に防げるのが、いのちの森・ふるさとの森、防災生態林であると考えます。自然環境の保全と250年のいのちと心を植えた喜びがあります。

酸素が多い空気、有機物の少ない空気、フイトンチッドの充満する美味しい空気の環境づくりが望まれます。特に樹木の発するフイトンチッドは、新型コロナウィルス予防に役立つことが期待できます。

ＮＰＯ新潟県山野草をたずねる会の達者で活動できる方々に、活動引継ぎをお願いできたことを嬉しく思います。ボランティア活動は、組織をあげて協力しあい、仲間が仲良く楽しく活動するものです。末長い活動の栄を期待します。これまでのご厚情に感謝し、御礼申し上げます。退任にあたり、名誉会長名を頂き光栄に存じ、挨拶といたします。　（※　昨年度、小日向先生にご寄稿いただいたものです。）

移行して2年、そしてこれから

代表兼活動責任者　角山　正博

NPO 法人から任意団体に移行し、間もなく２年になります。この間に生じた問題を解決するため、運営体制を変えて、今年７月に活動を開始しました。活動時期が遅くなりコロナ禍の影響もありましたが、皆様方のご協力とご支援を頂き、ほぼ今まで同様の活動が実施できました。本当に有難うございました。

私達の活動で「報酬を得たい」と思う人はまずいないと思います。では何のために参加するのでしょう？それは「笑顔」ではないかと思います。同じことに興味を持つ人たちと会って話し、体を動かし、互いに笑顔になれる、そして次に会う機会を期待して家路につく、そんな持続可能なボランティア活動ができればと思います。

笑顔のある活動には余裕が必要であり、そのためには「身の丈に合った活動」が大事です。体力的にも経済的にも余裕のある活動をしたいと思います。

会の目的は「自然環境の保全」と「環境教育の推進」です。「自然環境の保全」は、現在行っている育樹活動です。これをどのように身の丈に合わせるか、あるいは止めるのかをこれから話し合って決める必要があると思います。「環境教育の推進」は、先ずこの会の名称「山野草をたずねる」活動の実践です。コロナ感染を考慮して、今年の夏に日帰り研修旅行を試みました。これも一つの形かもしれません。この他に糠山の「親子参加の育樹」と八方台の「体験学習」を、どのように身の丈に合わせるか話し合って決めたいと思います。

また、会員の高齢化は黙っていても毎年進みます。高齢化を食い止めるためには若い人たちに入って貰うしかありません。これが最も大事で最も難しい課題ですが、少しでも前進する道がないものか知恵を出し合いたいと思います。皆様のご協力をお願いします。

令和４年度 主な活動紹介

7月31日㈯　蒼柴の森育樹

会員８名の参加。草刈り機３台フル回転、腰を曲げ、黙々と大がまを振るって、梅雨に伸びきった下草を刈りました。日陰とはいえ真夏の作業なので、たびたび休憩を挟み、９時から始めて午前中いっぱい活動し、汗だくになりました。作業を終え、お茶会をしながら、会員同士の交流が弾み、成長した蒼柴の森の樹木に響き渡る蝉の声が心に沁みました。

8月19日㈮　妙法寺日帰り研修旅行

会員７名の参加。前日までの雨模様から一転、素晴らしい天気に恵まれました。石段を登り、赤門を越え、本堂へ向かいました。杉等多くの木々に囲まれ暑さは感じないものの、やぶ蚊の襲撃にあいムヒの世話になりました。登山道から尾根に上がり、「キンミズヒキ」「ヤブラン」など多くの野草を観察できました。特に「キツネノカミソリ」の群落に感動しました。帰りは道の駅「わしま」にて、ガンジーソフトアイスを食べました。最後に、与板の志保の里荘にて昼食を食べ、ひとっ風呂浴び、疲れを癒して帰りました。

9月10日(土)　糠山育樹・植樹

コロナ禍のため、規模を縮小して実施しました。長岡信用金庫４名、ぬかやま会５名の協力をいただき、会員は12名、計21名での活動でした。６月に会員で下草刈りと枯れた苗木の捕植を行いましたが、夏に下草が伸び放題になり、会員で８月に２回、下草刈りを行いました。

ぬかやま会の方々には主に飛び地の草刈り等を担当してもらいました。信金の方々と会員で植樹地に腐葉土200袋、もみ殻15袋を撒きました。

９時から２時間半ほど、よい汗をかきました。植樹してから３年がたち、苗木の成長速度に差が出ています。成長した樹木の下、心地よい初秋の風を感じリフレッシュしました。苗木が大きくなるにはまだまだ手入れが必要です。

10月23日(日)　八方台育樹・植樹

前日からの大雨でしたが、天気が回復したので実施できました。行政、長岡法人会、東北電力、日本精機等35名ほど、会員15名、親子連れも２組参加がありました。

開会式を手短にし、下草刈り、捕植、もみ殻撒きを行いました。大勢の力で２か所の植樹地の作業を効率よくできました。

その後、２班に分かれ、自然体験を行いました。１班は小日向先生講師、八方台の森の観察。途中、ヤマボウシの実を採取して味見をしました。初めて口にする方は、その甘味に驚いていました。２班は、クロモジの枝を使った爪楊枝づくり。久しぶりの切り出し小刀作業に皆が真剣でした。午後から雨の予報のため、11時過ぎ、肉屋さんのお土産が届き、早めに閉会式を行い解散しました。片付け終わると雨が降り出し、参加者の皆さんの精進の賜と感じました。

11月6日(日)　秋の野に学ぶ、きのこ研修

糠山にてきのこ研修を実施しました。幸いほとんど雨に会わずに済みました。燕市から3名の方の参加があり、会員合わせ11名の参加。里山の糠山は、紅葉の真っ盛り。早い時期のきのこが終わり、晩生きのこの季節でした。スギヒラタケの白い傘が目立ちました。９時から約２時間、山の中を歩きました。かなりの収穫があった人、わずかだった人様々ですが、小日向先生に鑑定していただき、採れたきのこは17種類。毒キノコはありませんでした。立派なイグチがたくさん採れました。

最後に美味しいキノコ汁をおなか一杯いただきました、作ってくれた会員の皆さんに感謝です。

（**編集後記**）昨年からの活動見直しのため、紙面を一新しました。会の詳しい活動内容については、新潟県山野草をたずねる会のＨＰ（http:/www.cnfo-niigatakensnnyasou.or.jp/）をご覧ください。　（編集：運営委員　安原直規）